

平成 26 年度 日野市立図書館の  
運営の状況に関する評価書  
(平成 25 年度事業)  
くらしの中に図書館を  
—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 26 年 8 月  
日野市立図書館

## 目 次

1	はじめに	1
2	評価の目的	1
3	図書館の現状	1
	（1）施設	1
	（2）組織・職員	2
	（3）主な業務	2
4	評価の方法	2
5	評価の対象事業	2
6	評価の結果	3
7	評価表	
	乳幼児・小中学生サービス	4
	青少年サービス	4
	学校支援	4
	成人・高齢者サービス	4
	障害者サービス	5
	各館での取り組み	5
	資料の選択・収集	6
	予約・リクエスト・相互貸借	7
	レファレンスサービス	7
	地域・行政資料（市政図書室）	7
参考資料	サービス実績	8
	日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱	9
	図書館協議会委員名簿	10

## 1 はじめに

平成 20 年 6 月に「図書館法」が改正され、図書館の運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めること、また、図書館奉仕に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならないこととされました。

そのため、図書館では、平成 21 年 3 月 31 日に、「日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、平成 21 年度から図書館の運営状況に関する評価を開始しました。

## 2 評価の目的

この評価は、図書館の運営状況に関する情報を積極的に提供することにより、市民・利用者やその他の関係者との理解を深め、連携及び協力を推進し、市民・利用者に信頼される効果的な図書館運営の推進に資することを目的に行います。

この目的遂行のため、図書館は毎年 1 回、運営状況について評価を行い、その評価に関する報告書を毎年作成し、教育委員会に提出するとともに、市民に公表することとしています。その、評価結果に基づき図書館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

## 3 図書館の現状

### (1) 施設

施設の名称	延べ床面積	現館の開館日	所在地	蔵書規模
中央図書館	2,220 m <sup>2</sup>	昭和 48. 4. 28	豊田 2-49-2	253 千冊
移動図書館	1 台 (20 駐車場)	昭和 40. 9. 21	同上	28 千冊
高幡図書館	1,358 m <sup>2</sup>	昭和 55. 5. 11	三沢 4-1-12	88 千冊
日野図書館	422 m <sup>2</sup>	昭和 55. 5. 18	日野本町 7-5-14	51 千冊
多摩平図書館	856 m <sup>2</sup>	平成 16. 4. 1	多摩平 2-9 多摩平の森ふれあい館 1 階	105 千冊
平山図書館	412 m <sup>2</sup>	平成 20. 4. 5	平山 5-18-2 平山季重ふれあい館 1 階	50 千冊
市政図書室	140 m <sup>2</sup>	昭和 52. 12. 1	神明 1-12-1 日野市役所 1 階	41 千冊
百草図書館	759 m <sup>2</sup>	平成 2. 11. 16	百草 204-1 ガーデ ンビュー石神 D2 階	68 千冊

- (2) 組織・職員 ※平成 26 年 3 月 31 日現在  
1 課 3 係 (庶務・業務・奉仕)、6 分館  
正規職員 39 人 (うち司書 28 人)、  
再任用職員 3 人 (うち司書 1 人)  
嘱託職員・臨時職員 (週 30 時間換算) 25.5 人

(3) 主な業務

- ・ 図書館資料の収集、整理及び保存
- ・ 個人貸出、団体貸出
- ・ 読書案内及び読書相談
- ・ レファレンス
- ・ 読書会、研究会、講習会、展示会等の主催及び奨励
- ・ 館報その他の読書資料の発行及び頒布
- ・ 図書館資料の図書館間相互貸借
- ・ 市内の学校への資料提供と協力
- ・ 地方行政資料の収集及び提供

## 4 評価の方法

評価の対象事業について、図書館の活動実績・自己評価を、図書館協議会に報告し、事業の説明会を実施しました。それに対し図書館協議会委員の意見をいただき、評価を行いました。

## 5 評価の対象事業

「第 2 次日野市立図書館基本計画」の基本方針の下の重点的な取り組みから抽出した、下記 10 事業について評価を行いました。

○基本方針 すべての市民が利用しやすい図書館をめざします

【乳幼児・小中学生サービス】

【青少年サービス】

【学校支援】

【成人・高齢者サービス】

【障害者サービス】

【各館での取り組み】

○基本方針 市民が求める本や資料・情報を収集・保存・提供します

【資料の選択・収集】

【予約・リクエスト・相互貸借】

○基本方針 市民と資料・情報とを結びつけ、市民の暮らしを支援します

**【レファレンスサービス】**

○基本方針 地域・行政資料を収集・保存・提供し、日野市の歴史を未来に伝えます

**【地域・行政資料（市政図書室）】**

## 6 評価の結果

図書館協議会の総括的意見は次のとおりです。

『幼児や小中学生を対象とした、キメの細かい事業の実施は、将来の図書館利用者の拡大に通じる事業であり高く評価できる。

その他、障害者を対象とした事業、予約リクエスト、レファレンスなど、いずれの事業についても概ね目標に達し、一定の成果は見られる。現状の限られた財政的・人的条件の制約の中では高く評価できる。

図書資料の貸出しは、ここ数年大きな伸びは見られないが、図書館運営としては安定的に推移している。

今後は、これまでと同様限られた資源を有効に活用し、市民の要望に応えるべく創意工夫を重ね努力されたい。

図書館は、市民の生涯学習のための中核施設事業であることに鑑み、現下の財政状況下では厳しいことは理解できるが、予算的・人的措置の充実を大いに期待したい。』

自己評価についても主要事業を初め概ね目標に対し成果をあげることができたとしています。一方で、市民へのPR不足や収蔵スペースの確保等の課題が残りました。今後も利用者のニーズの把握等、各取組みに対する検証を行い、更なるサービスの向上を推進していきます。

「くらしの中に図書館を」を基本理念とする「第2次日野市立図書館基本計画」（計画期間は平成24年度から平成29年度までの6年間）が平成25年度から本格的にスタートしました。

「市民の知の拠点」である図書館、「市民が等しく自由に、本や資料・情報を利用できる場」である図書館、「市民の教養を高め、心を豊かにする」図書館をめざし、施策・事業に取り組んでいくものです。

今回の評価や意見を受けて、次年度以降も取組みを継続・充実させるとともに、課題の解決や改善に努め、「第2次日野市立図書館基本計画」の実現を進めていきます。

各事業における図書館の自己評価及び図書館協議会からいただいた評価・意見は、4ページ以降の評価表のとおりです。

平成25年度 日野市立図書館事業評価表

平成26年8月公表

<p>★図書館目標 暮らしの中に図書館を 一市民に役立ち、共に歩む図書館</p> <p>★目指す図書館像（ビジョン）</p> <p>①すべての市民が利用しやすい図書館をめざします。</p> <p>②市民が求める本や資料・情報を収集・保存・提供します。</p> <p>③市民と資料・情報とを結びつけ、市民の暮らしを支援します。</p> <p>④地域・行政資料を収集・保存・提供し、日野市の歴史を未来に伝えます。</p> <p>⑤読みたい、調べたい、学びたいという市民を応援します。</p> <p>⑥資料や情報を介して、地域の人と人との交流を促します。</p>	<p>《主要事業について》</p> <p>○ 図書貸出管理システム更新事業 平成26年1月に図書館図書貸出管理システムの更新を実施した。 ・サーバのクラウド化により耐震面の不安解消や電力消費量が削減されている。 ・ホームページのリニューアルやオンラインデータベース検索用端末を全館に設置する等により、利用者へのサービスが向上した。</p> <p>○ 学校図書館支援事業（第2次子ども読書推進計画に基づく） 市立図書館が「子どもと本の出会いの場」としての学校図書館を情報、物流、図書の多方面から支援し、新たな環境整備により市立図書館と学校図書館の連携を促進した。 ・新たな取組みとして、各小学校に読み物の本を中心とした配本を開始した（本の森学級文庫）。 ・図書貸出管理システムの更新に伴い、学校図書館に端末機を2台設置し図書検索支援ソフトを導入したことで、授業内容に即した資料等の検索に役立たせることができています。</p> <p>○ 日野宿発見隊事業 国体、市制施行50周年と連携し、まちかど写真館や日野宿交流館写真展を開催した。 ・「まちかど写真館 in ひの」、「うおーくらりー in 日野宿」等により、市民ボランティアと協働で日野市を訪れた方々を歓迎したり、地域の歴史や文化を掘り起し、記録と保存と活用を進めることができた。</p>
--	---

領域	取組事業	年度目標	具体的方策	取組指標			
				取組指標	内容と成果	図書館協議会の意見	結果の分析と改善策
利用	乳幼児・小中学生サービス	通常のおはなし会のほかに、児童と保護者に向けた読書推進イベントを実施	・昨年までのイベントでは、各館で分散しておはなし会を行っていたが、集客の見込める多摩平の森ふれあい館1館にイベントを集約する。 ・1日を通し児童と保護者に向けたイベントを開催することで、図書館行事をアピールする。	④ 効果的なサービスができた 3 実施した 2 実施できなかった 1 打ち合わせもしなかった	参加者延べ子ども78名、大人42名の参加があった。 1日を通してイベントを実施し、通常のおはなし会ではできなかった0歳から青少年まで縦軸で繋がるサービスが展開できた。	・特定日に集約したイベントを持った意味は大。利用者は勿論だが、図書館スタッフにとっての意味が大きく、サービス活性化につながる試みを評価する。 ・子どもと保護者が一緒に参加できる機会はとても重要である。 ・先を見越し、世代が縦軸で繋がっていきけるような、継続イベント等の実施を期待したい。 ・小学生からは自ら本を手取る時期であり、どのように探している本に出会うか、あるいは本に興味を持たせるかなどを目的とした事業を進めていくべきと考える。	【分析】 ・児童と保護者への取組みについて一定の評価を受けているが、世代間の繋がり等、新たな仕掛けによるサービスが求められている。 【改善策】 ・地域館で行う通常のおはなし会とは別に、今後も継続イベント事業として、年齢別の多様な読書推進行事を考え、縦軸で続くような児童へのサービスを上げていく。 ・通常のおはなし会のあり方も再検討する。
	青少年サービス	公募した読書好きの青少年（ヤングスタッフ）が、新たな活動の場を確保し、読書の楽しさを同世代から発信	・市内中学校、高校、大学等との共催事業として、ヤングスタッフが薦めたい本を紹介するイベント（ブックパレード）等を実施。本の紹介や読書の楽しさを同世代から発信する。	④ 試行的に実施できた 2 実施には至らないが実施に向けて打ち合わせができた 1 未実施（打ち合わせ含む）	中学校1校で1年生3学級に対し、ブックパレードを実施した。 高校・大学については、仕組みを構築するまでには至らなかった。	・この年代にふさわしい図書館活動で、「同世代から発信」というコンセプトは大いに賛同する。 ・ヤングスタッフの拡大と育成も大切である。 ・中学～大学と広い年齢に渡るつながりができるという点をより活かしたい。 ・大学生が高校生に、高校生が中学生に本を推薦するほか、学校における研究をどのように進めていけばよいかなどの情報を提供し合えるネットワークの構築はできないだろうか。	【分析】 ・学校側の評価が高く、スタッフも達成感を得られ双方にとって意義のある活動になった。 ・同世代からの発信で親しみが持てた様子で、市立図書館のPRもできた。 ・司書教諭連絡会、校長会への協力依頼はできたが、市内高等学校、大学へのアプローチができなかった。 【改善策】 ・校長会等を通じ、各校の年間行事にヤングスタッフによるブックパレードを順次組み入れていただけるよう提案していく。 ・市内高等学校、大学へのアプローチについては、スタッフの在籍する学校から検討していく。
	学校支援	授業の進行に沿った資料の提供	・学校図書館システムの更新に伴い、システム更新の説明会や連絡調整会を実施して、学校図書館との連携を更に進める。 ・小中学校での調べ学習用の図書の貸出の利用を推進するとともに、読書に親しめるよう読み物の配本を実施する。 ・職場体験学習として児童生徒を図書館に受け入れ、実際に図書館業務を体験してもらう。 ・教諭と図書館職員との情報交換・交流の場を設け、学校図書館用図書の選書に際しての情報提供などを行う。	④ 新たな支援を始め、順調に推移している 3 新たな支援を始めた 2 新たな支援を準備した（図書の購入、装備） 1 新たな支援を検討した（本の森学級文庫）	学校と図書館との協力・連携がスムーズに推移している。  新たな支援 ①読書推進のための小学校への資料支援（本の森学級文庫） ②学校図書館に資料検索用PCを1台から2台に増設 ③上記PCに図書検索支援ソフトを導入	・小学校へのサービスは大変充実している。 ・読書力や授業を聞く力を養うため、小学校でのお話会なども、今後検討すべきである。 ・学校から、学校図書館の蔵書と市立図書館との蔵書を同時に検索できるような仕組みは作れないだろうか。 ・学校図書館の自立を見通し、適切な距離をとった取組が肝要である。 ・教諭と館員との連携が一層重要である。	【分析】 ・学校支援は、学校図書館にできることとできないことを見極めた上で、的確な支援を進めていく必要があり、学校図書館の自立を妨げるものとなってはならない。そのことを踏まえた上で、授業をサポートする資料や学級文庫用の読み物の搬送などを進めていくが、資料の拡充は今後も必要である。 【改善策】 ・学校図書館から、学校図書館と市立図書館の蔵書を同時に検索できるシステムについては、次期システムを検討していく中での課題とする。学校図書館への支援にとどまらず、教諭との協力、連携を今まで以上に深めていく。
	成人・高齢者サービス	読書の興味や関心を更に広げるために各館ごとにテーマを設定した図書展示の実施	・各館ごとに、年間計画を立てテーマを設定する。 ・市制施行50周年事業等、市の取組事業と連携した展示を行う。	4 展示した図書をHPや館報ひろばで紹介 ③ 年間計画による展示とスポット展示を組み合わせ実施 2 各館ごとに年間計画をたてて展示実施 1 展示の実施が少なかった	展示を活発に実施し、利用につなげた。  ①各図書館ごとの主な実施テーマ ・中央図書館「開館40周年記念」 ・高幡図書館「歌舞伎」 ・日野図書館「新選組」 ・多摩平図書館「日本という国」 ・平山図書館「平山季重」 ・百草図書館「小島善太郎」 ②共通テーマ（市の取組事業と連携） ・「環境」「子育て支援」「食育」「がん対策」「自殺防止」等	・市の取り組み事業との連携展示は双方にとって有効である。 ・時事も加味したピックアップを行なうことで、新たな本との出会いに貢献できている。 ・中立性に気を付けつつ国際問題や政治的問題にも触れた展示はできないだろうか。 ・情報発信が対象者に届かない。興味を示しそうな相手への発信をすべきである。	【分析】 ・各館がタイムリーなテーマの展示を行ない、貸出等の利用につながった。市の事業と連携したテーマの展示にも取り組んだが、情報発信が足りなかったことが課題である。 【改善策】 ・今後も庁内他課と連携した展示を推進するとともに、各館独自の地域性や時宜に叶ったテーマによる展示も充実させる。 ・館報「ひろば」や広報ひの等を活用して情報発信し、新たな利用者の開拓に結び付ける。

障害者サービス	宅配サービスの充実	・ボランティア宅配を活用し、より迅速な資料の提供に努める	4 資料の提供エリアを更に広げた ③ スムーズに迅速な資料の提供ができた 2 迅速に資料の提供ができなかった 1 資料の提供ができなかった	一部の地域で浸透し、よく利用されている。前年度を上回る実績をあげたが、提供エリアが一部の地域にとどまり広げることができなかった。	・多くの困難な問題がある中、「前年度を上回る実績をあげた」は評価できる。 ・宅配サービスの潜在的需要は多く、今後も増えると思う。より一層の周知、宣伝をするべきである。 ・ボランティアスタッフより、知識のある職員が行ったほうが速いとのことであるならば、現行のボランティアスタッフから別の形へ置き換えるべきではないか。	【分析】 ・宅配サービスの質・量の改善が必要とされる。 【改善】 ・「利用者宅が障害者サービスにとっては図書館のカウンターである」という理念から、図書館が大切にしてきた職員による宅配と市民の力を図書館サービスに生かすボランティアによる宅配、それぞれの利点を再考し、「利用者の望む宅配」が実現できるよう検討する。	
	音訳サービスの充実	・音訳者の音訳技術向上とDAISY編集技術習得のため、音訳者講習会（全3回）とDAISY学習会（年2回）を開催する。	4 計画を上回る回数、実施できた ③ 計画通り実施できた 2 一部実施できなかった 1 実施できなかった	音訳者講習会とDAISY学習会を計画通り開催した。新人の音訳者の技術も徐々に向上しているが、講習会は中級者のみの実施となった。	・高齢化がさらに進む中、視覚的に本を読むのが困難な人は間違いなく増える。音訳者の増員と充実した初級・中級講習会等が不可欠である。 ・音訳者の高齢化が気にかかる。市内の大学との協働で技術継承をしていく方途を探れないだろうか。	【分析】 ・音訳者の高齢化が進む中、人員の確保や資質の向上が求められている。 【改善策】 ・音訳者の資質の向上が図れるよう、講習会を更に充実させていく。 ・人員の確保に向けての仕組みを検討する。	
施設	各館での取り組み（中央図書館）	中央図書館開館40周年記念事業を市民参加で実施	④ 実施できた 3 おおむね実施できた 2 一部実施できた 1 実施できなかった	4月に「誕生祭」を開催し、市民参加のイベントや思い出募集を実施した。 ①日野ケーブルテレビ、市HP、図書館HP等への広報 ②開架展示コーナーに「中央図書館の思い出」メッセージや「中央図書館の写真」を展示 ③ひまわり号の自由工作（組立、しおり）に約50人の親子が参加 ④リサイクル雑誌の頒布	・「思い出」の展示をはじめとした市民参加型のイベント実施は図書館運営にとって有効である。参加した市民にとって図書館は無関係な場所でなくなり多くの市民が図書館を意識することになる。 ・節目の年にふさわしい企画だったと思う。次は、市立図書館の司令塔として強化すべき事業を模索したい。 ・中央図書館は、老朽化が気になる。	【分析】 ・「誕生祭」を市民参加で実施できたことは有効であった。 ・イベント開催中や「中央図書館の思い出」募集に寄せられた市民の意見を、サービスの改善、向上に反映していく必要がある。 【改善策】 ・今後のイベント開催に向けて、幅広い世代に来館してもらえる企画内容や、イベント開催の周知手段等を再検討し、未利用者の開拓につなげる。	
	各館での取り組み（高幡図書館）	保育園の図書館利用を促進	④ 年間延べ80クラス以上の保育園児が来館 3 年間延べ60クラス以上の保育園児が来館 2 年間延べ40クラス以上の保育園児が来館 1 年間延べ40クラス未満の保育園児が来館	年間延べ80クラス以上が来館し、約2000冊の貸出しを行った。また、園の希望により、臨時のおはなし会を7回開催した。さらに、園児の図書の利用を促進することで、保護者への啓発にもつながった。	・将来の良き図書館利用者育成にもつながる大切な活動。さらなるサービスの推進を期待する。 ・高く評価する。保育園、幼稚園などの年齢時に、聞く力の育成、おはなし・物語を楽しむ力の育成は、読書力を養うため、とても大切なことである。 ・保護者へのPRが大切である。 ・高幡不動尊に近く、日野市一の市街地に位置する利点をさらに活かす事業ができないだろうか。	【分析】 ・子どもたちが生涯にわたって図書館をよりよく利用してくれるよう、子どもたちへのサービスは特に重要と考えている。特に今年度取り組み組んだ低年齢層への働きかけについて、高い評価を受けた。 【改善策】 ・今後も保育園とのよい関係を保ち、図書館利用を促進していく。また、幼稚園にも働きかけて幼児の図書館利用をさらに促進し、保護者の図書館利用の啓発にもつながっていく。	
	各館での取り組み（日野図書館）	地域住民と共同で取り組んでいる日野宿発見隊事業の充実	・日野宿発見隊事業を年4回以上実施する。	④ 4回以上 3 3回 2 2回 1 1回	地域住民と共同で4回開催した。 ①「うおーくらりーin日野宿」（スタンブラー）参加者257人 ②まち歩き会（日野駅周辺見どころツアーほか）参加者77人 ③用水で遊ぼう 参加者33人 ④夏祭り（夕涼み会等）	・唯一、日野図書館でしかできない事業であり大いにアピールしてほしい。 ・図書館の実践を外部に発信（日本社会教育学会での発表）することも大事なことであり、評価したい。 ・特色ある図書館としての取り組みを今後も継続して欲しい。 ・今後もこうした取り組みを続け、イベントや郷土関連の記録のみならず、住民との協働という経験を蓄積した図書館になることで重要な役割を果たしていけると考える。	【分析】 ・地域住民と図書館がともに力を合わせて地域づくりを実践している取り組みが評価された。 【改善策】 ・PR方法を再検討するほか、住民にとって役立つ図書館を実現するよう、事業の拡充を図っていく。
	各館での取り組み（多摩平図書館）	館内の美化を推進	・定期的に掃除を行う。 ・開館中はごみ、汚れ等に注意し、必要に応じ掃除する。 ・チラシ用ラックを購入し利用者への情報提供のため、チラシ等を効率よく並べる。	④ スムーズに実施できている 3 実施できた 2 概ね実施できた 1 実施できなかった	来館者が非常に多い館であるため、開館中は通常業務に追われているが、職員館内美化に対する意識を高めることで、日常的に清潔な環境づくりができていく。	・図書館にとってもっとも基本的なサービスであり大切である。 ・利用者が気持ちよく利用できるよう今後も努力して欲しい。 ・近所のイオンモール開業による利用者増のチャンスとして、まずは欠くべからざる点がクリアされている。土休日に高まると思われる需要を伸ばしていく方向で次なる事業を推進していくべきと考える。（買い物中・前後の子どもや家族の利用を見込んで）	【分析】 ・館内の美化については、利用しやすい図書館サービスの基本であり、今後も継続していく。 【改善策】 ・イオンモール開業や住宅の増加による利用者増が予想されるが、それをチャンスととらえ利用の推進につなげるよう、多摩平図書館の体制等を検討する必要がある。
各館での取り組み（平山図書館）	ブラウジングスペースの有効利用	・ブラウジングルームに閲覧用長テーブルを増設し、スペースの有効利用を図る。	④ 有効利用を促進できた 3 設置したが有効利用できなかった 2 設置準備中 1 設置準備もできなかった	閲覧用長テーブルを6台増設し利用座席を増やしたことにより、席数が少ないという苦情を減らすことができた。	・レイアウトを検討し、より使いやすい、居心地の良い館内にする努力は大切である。 ・利用者の声を大事にし、より良い環境づくりに努めて欲しい。 ・八王子市境に近い位置にあることを活かし、八王子に関する図書などをさらに充実できないだろうか。	【分析】 ・机の数や配置などを工夫し、利用しやすい環境の整備が求められている。 【改善策】 ・ブラウジングを有効に活用するうえで、利用者のニーズを知ることが必要である。 ・八王子市についての資料に対するアンテナを高くし、今後も日野市地域資料と同じように収集に努力する。	

施設	各館での取り組み (百草図書館)	開架書架の適正な管理 ・開架書架等の資料の点検を行い、資料の状態により除架、補充を行う。	④ スムーズに実施できている 3 実施できた 2 概ね実施できた 1 実施できなかった	定期的に除架・補充を行ったことで見やすい書架を保った。見やすさを保つことにより、書架の魅力を高め、子どもから高齢者まで、求める資料を探しやすくなった。	・利用意欲に影響する、図書館にとって最も基本的なサービスであり重要である。 ・今後も書架整理を定期的実施し、利用しやすい図書館をつくって欲しい。	【分析】 ・定期的に書架整理を行い、「見やすく、探しやすい書架」を保つことで利用者の読書欲を向上させることができた。また、視聴覚資料の提供において、様々なジャンルのCDの収集は、幅広い年齢層の利用促進につながっている。 【改善策】 ・今後も利用者ニーズを常に考慮しながら、除架・補充を行い、適正な書架管理に努めていく。
	各館での取り組み (移動図書館)	各種団体への貸出サービスの実施 ・保育園、幼稚園、学童クラブ、病院等に巡回に行き、貸し出しを行う。 移動図書館「ひまわり号」の利用促進 ・市が企画するイベント等へ参加し、移動図書館のPRを行う。	④ 計画を上回る回数を実施する。 3 計画通り実施する。 2 概ね計画通り実施する。 1 実施できない。 ④ イベントでは本の貸出以外にもプログラムを作り、積極的にPRを行う 3 イベントでは本の貸出を通して、移動図書館PRを行う 2 イベントに参加したが、移動図書館PRは不十分であった 1 参加できなかった	前年度より2団体増えた。26年4月開園の新設の保育園から早速依頼があり、このサービスが期待されていることを強く感じた。 市制施行50周年祭への参加がよいPRとなり、その後の貸出増加に繋がった。会場でのひまわり号の模型紙工作は好評を得た。	・利用者が来るのを待つだけでなく図書館が外向いて行うサービスは重要であり、特に出向きにくい市民(園児、病人等)へのサービスは大切である。 ・新規利用者が増えるきっかけに役立っている。 ・行き先毎に積んでいく資料を検討するなど、満足度を上げるべく事業の細部を見直したい。 ・移動図書館は日野市立図書館のシンボルともいえる存在であり、広告塔としての役割も担っている。一層の活動を期待する。 ・市制施行50周年のイベント参加はよいPRになった。今後も市の催しの時などに来店して欲しい。 ・都レベルのイベントに参加するなどして日野市外にも移動図書館の有用性などをアピールできないだろうか。 ・ひまわり号は自慢できるサービス。台数を増やすなどの検討を望む。	【分析】 ・図書館へ来られない人へのサービスとして、「ひまわり号」は大切な役割を担っている。 【改善策】 ・「出張図書館」として、読み聞かせや紙芝居を披露できないか検討する。 ・ひまわり号に、貸出用の本を積んで行くだけでなく、差し上げる本も一緒に持っていくなどの工夫ができないか検討する。 【分析】 ・イベント参加やひまわり号の模型紙工作は高い評価を頂いた。 ・広告塔としての役割もあるので、利用の掘り起こしが必要である。 【改善策】 ・イベントへの参加を継続し、PR効果を狙う。通常ルート以外を走るだけでもPRになる。 ・ひまわり号増車などのサービス促進は、市の方針や財政部門と情報共有して可能性を探っていく。
資料提供	資料の選択・収集	視聴覚資料(CD)の内容記述データ作成・受入点数の増加 ・購入するCDについて、137点(24年度実績)以上内容記述データを作成し、受入を行う。	4 受入数137点をはるかに超えた ③ 受入数137点をわずかに超えた 2 受入数137点 1 受入数137点未満	購入したCD139点の内容記述データを作成し、受入を行った。	・限られた予算内で年度目標を達成できたことをまず評価したい。 ・視聴覚資料に関しては、いっそのこと日野市や東京都などに関連する資料に絞っての受け入れにすべきではないか。 ・落語やクラシックなどは、民間やより大規模な図書館、別の資料館にその役割を委ねてもよいと考える。	【分析】 ・視聴覚資料の規模が中途半端な印象を与えている。 【改善策】 ・導入予定のナクソス・ミュージックライブラリーでサービスの向上が見込めるが、接続機器を持たない市民へのサービスは、これまでどおり続ける必要がある。今後数年は、併用しながら利用状況を把握し、サービス体制を検討する。
	オンラインデータベースの充実	オンラインデータベースの種類及び提供できる館を増やす。 ・オンラインデータベースの種類及び提供できる館を増やす。	4 オンラインデータベースの種類・提供館を増やした ③ オンラインデータベースの種類・提供館変更なし 2 オンラインデータベースの種類等の調査を行う 1 オンラインデータベースの種類・提供館が減少	26年1月の電算システムの更新の際に、全館で提供ができるシステムを構築したが、25年度中に市民に利用を開放する準備が整わなかった。26年度からオンラインデータベースの種類を増やすよう予算等準備をした。	・オンラインデータベースの種類は単に数量だけでなくジャンルのバランスを検討すべきである。(自然科学、医学の分野等) ・存在や活用法などをPRすべきである。 ・使用に関しては窓口申請を必須とし、混雑している場合には時間制限を設けるなど上手く利用し合える制度づくりが必要と考える。	【分析】 ・オンラインデータベースは有用な資料と認識されているが、その存在と活用法は、ほとんど知られていないのが現状である。 【改善策】 ・更にPRを行い、市民の利活用を促進する。 ・今後、ジャンルのバランス等も考慮しながら有用なデータベースの導入を検討していく。
	予約・リクエスト・相互貸借	利用者が求める資料の迅速な提供 ・返却期限を超過した利用者へ定期的に督促状を発送する。予約が集中した本は追加購入を行い、未所蔵の資料については、相互貸借を活用し迅速な資料の提供を行う。 ・予約した資料が用意されるまでの待ち時間を短縮するため、予約受付件数の見直しを行う。	④ より迅速な提供ができる改善を実施した 3 より迅速な提供ができる改善策を検討した 2 前年度と同程度の迅速な提供ができた 1 前年度に比べ迅速な提供が後退した	予約した資料が用意されるまでの待ち時間を短縮する一方策として、予約受付件数の見直しを行い、予約受付件数を50冊から30冊に変更した。	・日野の図書館内でのリクエスト本の流通など、大変スムーズである。 ・都立図書館との相互貸借の充実も絶えず追及してほしい。 ・予約件数を30冊未満にはしないでほしい。 ・一般的に考えて、予約受付件数30冊も多過ぎる。回転率を上げるためにも再検討したほうがよい。 ・予約受付が殺到すると見込まれる書籍であっても、多くとも1館1冊などの制限を設けるべきではないか。また、新作に限って貸出期限を短くするという方法も考えられる。	【分析】 ・「リクエスト本の流通など、大変スムーズである。」との評価を受けたが、利用状況を注視しながら運営していく必要がある。 【改善策】 ・予約が多数ある資料がより早く回転するように、予約受付件数、取置期限、連絡方法、督促方法を検討する。 ・予約が多くなったために追加で購入する冊数は、適切な資料収集と予約件数を考慮して決定する。



レファレンスサービス	レファレンスサービスを広く市民にPR	・レファレンスサービスをPRするため、ポスター、チラシなどを作成したり、図書館報「ひろば」に掲載する。	4 PR原稿を完成させ、周知する	PR原稿（案）を作成したが、実際の掲示や館報に掲載するまでには至らなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の専門性を発揮できる事業。図書館が生活に、仕事に役立つ場所であることを認識してもらうのにレファレンス・サービスは最適。特にいま社会を動かしている成人利用者へのアピールこそ大事である。</li> <li>・レファレンスPRの展示なども考えられるのではないかな。</li> <li>・内部研修を行いサービスの向上に期待する。</li> </ul>	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンスサービスは、図書館が暮らしに役立つ場所であることを認識してもらうのに欠かせない分野であるにもかかわらず、市民に十分知られているとはいえない。</li> <li>・図書館のPRも不十分である。</li> </ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続してPRする必要がある。PRは、館内掲示のポスターや図書館報「ひろば」だけでなく、「広報ひの」なども用いて広く周知していく。</li> </ul>
			③ PR原稿（案）の作成			
			2 PR原稿（案）の検討			
			1 PR原稿（案）の検討もできない			
「レファレンス事例集」の拡充	・図書館ホームページで公開している「レファレンス事例集」を更新、新たな事例を追加する。	④ 「事例集」の内容の更新、見直し、新たな事例の追加を行う	内容の更新をし、さらに「事例」を40から53まで追加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PRのもっとも具体的な手段ともいえる事例集の存在もPRをすべきである。</li> <li>・HPにある事例集は日野に興味を持つきっかけになる。</li> <li>・事例が増えたのは大変良いことだと思う。ただ、「レファレンス」という用語は耳慣れない市民も多いことと思われる。それゆえに、レファレンスを「調べ方」という言葉と並立して表記してみてはどうだろうか。</li> </ul>	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日野市に関するよくある質問」だけでなく、「日野」以外のさまざまな事例集の更新をし、サービスの向上が図れた。</li> </ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンス事例集の更新は継続的に取り組み、今後も事例が追加できるような仕組みを検討する。</li> </ul>	
		3 「事例集」の内容の更新を行う				
		2 「事例集」の更新、追加事例の検討				
		1 前年度と変更なし				
地域・行政資料（市政図書室）	資料保管スペースの確保	・処分できる資料を検討し、空いたスペースで効果的に活用できる資料を移動する	④ 空いたスペースに日野市予算書・決算書を移動	法令情報を検索できるオンラインデータベースを導入することにより、一部の加除資料を処分した。空いたスペースに、頻繁に利用される日野市予算書・決算書を配架し、利用しやすくした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市政図書室を入りやすく、利用しやすくするためのスペースの問題は重要だと思う。</li> <li>・当面の課題は達成されたかもしれないが、「資料保存のためのスペースの確保」という大きな課題の解決の目的はどうか。</li> <li>・政策立案に役立つ図書を大学教員などに推薦を受け、厳選していくなどの手段を講じることができないか。</li> </ul>	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用しやすくするためにも、スペースの確保は重要とされている。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スペースを確保するために、オンラインデータベース等の電子資料の導入により紙資料収集の見直しを図ることや、収集資料の精査を行い、処分できるものは処分していく必要がある。</li> </ul>
			3 加除資料を処分し、スペースの確保			
			2 加除資料の見直し			
			1 対策の検討			

サービス実績

			平成23年度	平成24年度	平成25年度
蔵書数(図書)	成人		610,901	621,366	626,117
	児童		153,965	156,729	162,508
	合計		764,866	778,095	788,625
受入数(図書)	成人		29,206	27,301	26,336
	児童		8,101	8,341	10,572
	合計		37,307	35,642	36,908
CD・ビデオ	保有数		4,916	5,191	5,232
	受入数		303	272	350
購入雑誌	タイトル数		508	506	500
利用登録者(年度中に1回以上利用した者)	成人		34,090	33,904	33,200
	児童(0~15歳未満)		5,825	5,679	5,631
	合計		39,915	39,583	38,831
個人貸出数	成人図書・雑誌		1,232,464	1,221,158	1,171,281
	児童図書・雑誌		471,867	479,398	461,493
	CD・ビデオ		17,151	17,406	15,822
	合計		1,721,482	1,717,962	1,648,596
移動図書館による団体貸出(雑誌・CDを含む)	団体数		48	48	50
	貸出冊数		19,191	20,339	21,299
図書等の予約受付(雑誌・CDを含む)	受付件数		460,444	466,179	427,286
学級文庫への配本	貸出冊数		—	—	2,011
幼稚園・保育園・子育て関連施設への配本	貸出冊数		2,540	2,780	2,890
ヤングスタッフ	スタッフ	人数	19	24	12
	ブックパレード	開催数	2	1	4
障害者サービス	利用登録者	個人	160	154	171
		団体	7	7	8
	対面朗読	件数	161	178	176
	音訳・点字訳図書貸出	タイトル数	3,934	3,450	3,172
文献調査	件数		3,585	3,211	3,396

## 日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日

(目的)

第1条 この要綱は、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3に規定する、図書館の運営の状況に関する評価等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市立図書館（以下「図書館」という。）は、毎年1回、図書館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 図書館は、図書館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 図書館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 図書館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 図書館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、図書館庶務整理係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、図書館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

《第25期図書館協議会委員》

委員長	大杉 宏光	社会教育の関係者
副委員長	紺野 順子	学識経験者
委員	田中 ヒロ	社会教育の関係者
委員	阪田 幸子	学校教育の関係者
委員	中村 宏	学校教育の関係者
委員	赤川 千賀子	家庭教育の向上に資する活動を行う者
委員	青木 笙子	公募による市民
委員	長谷川 俊彦	公募による市民
委員	佐藤 恭子	公募による市民

任期 自 平成24年4月15日  
至 平成26年4月14日

《第26期図書館協議会委員》

委員長	大杉 宏光	社会教育の関係者
副委員長	紺野 順子	学識経験者
委員	田中 ヒロ	社会教育の関係者
委員	阪田 幸子	学校教育の関係者
委員	高橋 清吾	学校教育の関係者
委員	飯田 二美子	家庭教育の向上に資する活動を行う者
委員	岩本 和博	公募による市民
委員	木藤 創太	公募による市民
委員	田中 正昭	公募による市民

任期 自 平成26年4月15日  
至 平成28年4月14日

平成 26 年度 日野市立図書館の  
運営の状況に関する評価書

(平成 25 年度事業)

くらしの中に図書館を

—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 26 年 8 月

日野市立図書館

〒191-0053 東京都日野市豊田 2-49-2

電話 042-586-0584